

2. 内視鏡的ポリープ切除術の退院指導の実際

～退院個別チェックシートと退院指導用パンフレットを導入して～

社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院 5階西病棟消化器内視鏡センター

○神田 奈央、村田 由貴、上田 恭子

須賀崎香織、山口由美子、小柳 順子

【はじめに】

A病棟は病床数48床の消化器内視鏡科の専門病棟である。平成28年度は内視鏡を含む諸検査が8596件あり、うち434件を内視鏡的ポリープ切除術が占めていた。各検査・治療別のパンフレットを用いて退院指導を行っているが、看護師の経験年数や知識不足で指導内容が異なり、外来への情報提供も不十分で継続した看護が行えているとは言い難い現状があった。そこで、内視鏡的ポリープ切除術に関する勉強会を行い知識の向上に努めた。更に、パンフレットの内容を見直し、退院個別チェックシートの作成をすることで個別性があり、一定水準の統一した退院指導を行うことができるのではないかと考え、研究に取り組んだので報告する。

【目的】

退院個別チェックシートを作成することで、個別性のある退院指導を行うことができる。病棟外来間の情報共有を行うことで継続看護に繋げる。

【方法】

1) 介入前後にカルテ記録からの退院指導内容の現状調査 2) 介入前の退院指導に関する質問紙調査 3) 改訂後のパンフレットを用いた勉強会の開催・確認テストの実施結果に対して対応のあるt検定を行った 4) 退院個別チェックシートの作成と導入 5) 介入後の退院指導記録に関する質問紙調査

【結果 考察】

勉強会前後でテストを行った結果、胃ポリープ切除術は勉強会前、平均17.4点、勉強会後25点。大腸ポリープ切除術は勉強会前17.8点、勉強会後24.2点で、有意水準0.1%で有意差を認めた。また、介入後の退院指導記録に関する質問紙調査ではカルテ記載率は40%から75%へと上昇した。介入前後で調査した退院指導記録について、「指導記録にアセスメントや個別性の記載があるか」23%から介入後94%へ上昇した。

勉強会を開催したことはテストの平均点が上昇し、スタッフの経験年数にかかわらず知識向上に繋がったと考える。更に、退院個別チェックシートの導入、パンフレットの改訂

をしたことで、アセスメントや個別的な内容のカルテ記載が増えている。これにより指導した看護師以外の看護師が退院指導記録内容をもても患者の生活背景や個性が伝わりやすくなった。外来受診の際も病棟での退院指導内容をカルテから情報収集でき、患者の退院後の生活について確認でき、外来での生活指導に繋げることができる。斎藤は1)「退院後の生活においては個性のある適切な看護を考え、イメージしやすい内容で指導を行うことが必要である」と述べている。患者情報を共通理解し指導につなげていくことは継続看護を行っていくうえで必要不可欠である。

【結語】

退院個別チェックシートの作成は、個性のある退院指導に繋がる。パンフレットの改訂と看護師への勉強会は、統一した退院指導に繋がる。個性のある記録を残し、病棟外来間の情報共有を行うことは継続看護に繋がる。

【引用文献】

- ・斎藤裕子、消化器看護 日総研出版 4, 5月号 P11 2017

【参考文献】

- ・寺脇文香、藤下エリ、松永容子他：退院指導パンフレット活用についての意識調査、第44回日本看護学会 - 看護総合 - 学術集会 抄録集 2013
- ・渡部圭子、岡野郁美、濱本美佳：退院支援シート導入による情報共有に伴う看護師の意識の変化、第40回看護総合2009